

2019. 4. 18 (木)

## 飛べないおもちゃの本当の価値

Timothy O. Benedict

若者も倦み、疲れ、勇士もつまずき倒れようが 主に望みを置く人は新たな力を得、鷲のように翼を張って上る。走っても弱ることなく、歩いても疲れぬ。

(イザヤ書 40:30-31)

### はじめに

今月から社会学部の宣教師として着任致しましたベネディクトです。今月は KG スピリットと言うテーマなので、それに沿ってお話させていただきますが、KG スピリットの根元にある Mastery for Service という言葉は何度も何度もお聞きしているかと思えます。おそらく Service という言葉は関学に来る以前から聞き慣れた言葉だと思います。例えば、「日本のレストランはサービスが良い」と聞いたことはないでしょうか。他人のために使えることを指します。しかし、もしかしたら Mastery という言葉はあまり普通の生活で耳にしていないかもしれません。私は Mastery を聞くととてもプロのイメージが強いです。私よりも、カッコ良くて、優れていて、超人的なスキルを持っている人物が頭に浮かびます。何かを「マスターする」と同じ語源です。今日は一回生が多く出席していると思いますが、もしかしたら関学にきて早速、先輩や友達の中でこのようなスーパーヒーロ的な学生を見かけたかもしれません。

優秀な学生に囲まれて、自分はやっていけるのだろうか、と劣等感を感じている人もいるかもしれません。またある人は、大学生になって、やっと自分の特技を発揮できる舞台が与えられたと夢を膨らましているかもしれません。是非、皆様は自分の目標や新しい挑戦に挑んで下さい。Mastery を追求してください。しかし、今日は少し違う観点から Mastery についてお話ししたいと思います。今日は私たちが求める Mastery の限界についてのお話しです。そして、その限界を経験することによって与えられる本当の Mastery についてのお話しです。

### トイ・ストーリーから学ぶ自分の価値

突然話が変わりますが、皆様はトイ・ストーリーという映画を見たことがありますか？ 観たことがある方はどうぞ手をあげてください。私はこの映画が大好きですが、アンディという名前の男の子が所有するたくさんのおもちゃについてのお話しです。アンディが見ていないとき、それらのおもちゃは生き

ていて、動き回るので。そしてアンディの一番のお気に入りのおもちゃは、ウッディという名前のカウボーイの人形です。ウッディはとてもかっこよく、他のすべてのおもちゃから尊敬されています。しかし、ある日、アンディは誕生日のお祝いに新しいおもちゃをもらいます。それは、バズ・ライトイヤーという名前のスペースレンジャーでした。そして、バズはウッディと比べものにならない程、はるかにかっこよかったのです。しかし、おもしろい事に、バズは実は自分がおもちゃであるということに気づいていません。彼は、自分はスペースレンジャーで空を飛ぶことができるかと本気で信じているのです。

ある日、ウッディとバズは、悪ふざけでおもちゃを壊すことが好きなシドという、おとなりの悪ガキに捕まってしまいます。バズは空を飛んで逃げようとします。ウッディはバズに君はただのおもちゃだから飛べるわけがないと言いますが、バズは No, it can't be true, I could fly if I wanted to! いや、僕は飛べるんだ! と高いところから飛び降りて、飛ぶどころか地面に叩き付けられ、腕を折ってしまうのです。空を飛ぶことができず、自分は本物のスペースレンジャーではないということに気づいたとき、バズは打ちのめされます。

しかし、そのときに、落ち込むバズを励まそうと話しかけるウッディとの興味深いシーンがあります。そのシーンを頑張って再現したいと思いますが、まず、ウッディからです。

**ウッディ**：上に乗っている道具箱をどかしてくれないか？頼むよバズ。あんたがいないとここから出られない。助けが必要なんだ。

**バズ**：僕は誰も助けられない。

**ウッディ**：助けられるさ！ここから出て、そのロケットを外して一緒にアンディの家に帰ろう。

**バズ**：アンディの家とシドの家、どこが違うんだ。

**ウッディ**：おいバズ、高いところからおちて頭が変になったのかよ！

**バズ**：いあやウッディ、頭は最高にさえている。君が正しい事がやっとなかったのだ。僕はスペース・レンジャーではない。ただのくだらんおもちゃなのさ。

**ウッディ**：落ち込むことなんてないさ。おもちゃってのはスペース・レンジャーよりずっといいものなんだぜ！いいか？アンディはあんたを最高だと思っているんだ。でもそれはスペース・レンジャーだからじゃない。あんたがアンディの宝物だからだ。

あんたがアンディの宝物だからだ。自分は大切な宝物だからアンディはバズが好きなんだ。この経験を通して、バズは自分がアンディの宝物であることの方が本物のスペースレンジャーであることよりも、はるかに良いということを学ぶのです。そして、彼は自分の持ち主であるアンディーのもとに戻ることを決意します。バズはアンディに喜びをもたらすことができるのです。それは、彼が本物のスペースレンジャーだからではなく、アンディにとっての宝物だからです。このシーンを見ると、私はいつも自分と神様の関係を思い出します。私はクリスチャンなので神様の目の前にある私の弱いところや短所はもちろん隠せないと信じています。神様は全ての創造主でありますので私がどれだけパーフェクトではない人間なのかをよくご存知です。私は

格好いいスペース・レンジャーではありません。Mastery どころか神様の目から見たら私はただのおもちゃみたいなものです。今までも沢山の失敗を犯してきました。しかし、私は神様にとって大事な宝物。私は違いを起こす人間ならではの特徴をもっていて、世界の創造主なる神様の御用のために使われ、ありのままで喜ばせることができることを信じています。

### 失敗を起こした時

今日読んだ聖書箇所の前半にはこう書いてあります：*若者も倦み、疲れ、勇士もつまずき倒れ……*つまり、ここに書いてあるように、若者や勇士でさえ、バズみたいに疲れたり、倒れたりします。皆さまも新しい学年度がはじまり、いろんな期待を持っていると思います。しかし、私たちは間違えなく失敗も犯します。授業はもちろん、人間関係、就職活動、等、うまく行かないかもしれないものがたくさん先にあります。また、このようなチャレンジに遭遇した時、自分ができると思う気持と出来なかった現実を思い、自分は無価値だと感じる時もあるかもしれません。私たちのイメージしている自分の姿と実際に自分が行う行動の間には大きなずれがよく現れます。これは恥ずかしいことです。おそらく皆様は私みたいにそれがばれないようにうまく周りの人をごまかしているかもしれません。または、自尊心を守るために自分までごまかしているのかもしれません。「今の失敗はただ運が悪かった」とか「もう少し頑張ったら成功できる」、「これは相手のせいだ」、と自分の気持ちを大事にしながら、自我をごまかすのかもしれませんが、でも、失敗

がひどいときや、失敗が重なるときには自我をごまかせません。

### 本当の Mastery とは

では、Mastery を求めている私たちが様々な失敗と直面した時、どうしたら良いのでしょうか。その Mastery の鍵は今日の聖書箇所の後半にあります。

*若者も倦み、疲れ、勇士もつまずき倒れようが主に望みをおく人は新たな力を得、鷲のように翼を張って上る。走っても弱ることなく、歩いても疲れぬ。*

ここに書いてあるように、若者や勇士でさえ疲れたり、倒れたりします。しかし、主に望みを置く人は鷲のように翼を張って上っていく。これは自分は完璧でパーフェクトな人間ではなく、また、スペース・レンジャーとして宇宙を救う使命を受けているのでもなく、私たちの創造主である神様を喜ばせるためにこの世に置かれた人であるということを知るのだと私は信じています。

今月から新しい学年度が始まりました。いろいろ躓くことや、私たちがイメージしている通りに行かないことが先にあるかもしれません。しかし、たとえ身体が弱くても、たとえ心が疲れていても、神様は私たちにそれを乗り越える新たな力を与えてくださると約束しています。

最後に聖書箇所をもう一つだけ紹介して終わりにします。私はこの間、初めて知ったのですが、正門からキャンパス内に向かって行く時、時計台の後ろに甲山が見えるのはたまたまではなくて、この大学の設計に関わった

ヴォーリズという有名な建築家が意図的にそのようにしたそうです。ヴォーリズはクリスチャンであり彼は次の聖書箇所を考えてそのように設計したそうです。詩編というところからの聖書箇所です「目をあげて、私は山々を仰ぐ。私の助けはどこから来るのか。私の助けは来る。天地を造られた主のもとか

ら。」ぜひ、皆様も、時計台に上がって行く時、時々山を見上げながら、私たち一人一人をありのままに受け入れて下さる神様に感謝し、神様が与えてくださる絶えない本当のMastery に望みを置いてみましょう。

(社会学部助教・宣教師)